

事業所名	グループホーム ももたろうの郷 ひなた苑 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 3月30日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員 B:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(約10年)
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
足守の名勝地近水園に隣接し、春の桜・秋の紅葉と四季折々の景色が楽しめ、近くには小学校や公民館など公共施設もある。車の通りも少なく歩道が整備されているので、自然を満喫しながら安心して散歩が楽しめる。
法人の母体が整形外科という事もあり、病院と24時間連絡が取れる体制が出来ており、医療の面での安心感がある。看護師や医師による勉強会も行っており、職員の知識の向上に力を入れている。
町内会に加入し、清掃や様々な行事には積極的に参加しており、地域の方も気軽に訪問されている。また、福祉関係の情報やホームのたよりを地域に回覧するなど、ホームとしての役割を職員皆で考えながら、地域との交流がしっかりとできている。
職員は入居者とのより良い関わり方を常に考え、介護に対する自分の心構えを文章にする事で、気持ちを新たにしている。また、「気づきシート」を活用し、入居者の要望を汲み取る努力も行われている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
職員は、常に自分たちの介護に対する姿勢を振り返り、協力して入居者の生活を支えていこうとよく努力されていた。気づいた点としては、事故の記録やヒヤリハット等が細かく記載されていたが、より良いものに改善しようとする過程で、書式の種類が多くなっているようだった。分かりやすく、検討しやすいものに統一されると良いのではないかと感じた。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	今まで過ごしてきた暮らしを大切に、入居後もその人らしい生活が継続できるように支援していく。		
	家庭的な雰囲気の中で残存機能を生かし、入居者それぞれが楽しみとなるような役割を持ち、安心した日常生活が送れるように支援する。		
	“明るく笑顔のひなた苑”を目標に、職員は常に入居者との関わり方を振り返り、気持ちを大切にしたい心地よい環境作り日々努力を続けている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような増づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	安心して生活していただけるように、入居者との信頼関係を特に大切に考えている。その為には入居者とのコミュニケーション作りを怠らず、話をしっかりと聞いて受け止め、そこから要望を引き出すようにしている。		
	職員の体調や心理状態は、入居者に鏡のように映って伝わる事を心に留め、まず、職員が慌てずに落ち着いて、ゆったりと常に思いやりを持って入居者に接して行けるように努力している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	その方の得意な事やできる事を日々の生活の中に取り入れ、楽しみながら生き生きと暮らして行けるように支援している。(習字の得意な方の作品を廊下の壁に掲示してあり、素敵なインテリアになっていたりと、調理や食事のセッティング・後片付け等を楽しそうに手伝っておられた。)		
	排泄の誘導は小さな声で、さりげなく行うようにしている。失敗があった時も、目立たないように気を配って着衣の交換などを行っている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	月に1度、法人内の医師や看護師を講師にした勉強会を開催している。「血圧についての対応」「脱水について」「ペースメーカーについて」「褥そうと予防について」等、その時点で必要な事柄についての知識を学び、援助の質の向上に役立っている。		
	毎日の入居者との関わりの中で気づいた事・感じた事、入居者の要望・困っている事・楽しみ事等を「気づきシート」に記入し、それを参考に職員で話し合い、できるだけ入居者の気持ちに沿える支援をと心掛けている。		